

全
ZEN

宗
SHU

協
KYO



今年初めて開かれた役員会

役員会・全国研修会

「今年は改革の第一歩の年」
安田理事長、組織の「再構築」を強調

二月二十一日、東京湾を望む「アジュール竹芝」で

東京湾が眼下に広がる東京・港区の「アジュール竹芝」で二月二十一日、今年になって初めての役員会と春の全国研修会、併せて事業委員会など五つの委員会が開かれた。

役員会の冒頭、挨拶に立った安田理事長は、「今年を改革の第一歩の年と位置づけていきたい」との方針を示し、組織の「再構築」に全力をあげる考えを強調するとともに、組合員各氏のさらなる支援と協力を訴えた。

春の全国研修会では、(財)美術院常務理事の小野寺久幸氏が、氏がかかわった東大寺南大門の仁王像を中心に、「国宝文化財修復」について一時間半余話した。

今年になっての初の役員会は、春の全国研修会に先立って正午から開かれた。

役員会の冒頭、挨拶に立った安田理事長は、今年の全宗協について「改革の第一歩の年と位置づけていきたい」との方針を示すとともに、「これからの全宗協は事業を持つことで、皆さんにとって魅力のある組織、メリットのある組織にしていかなければならないと思っています」と、組織の「再構築」に全力をあげる考え(別掲参照)を強調した。

この後、午後二時から「総務」「事業」「会員増強」「正常化」「広報」の五つの委員会が開かれ、「改革の年と位置づけ

委員会では熱の入った論議が続いた



総務委員会



事業委員会



会員増強委員会



正常化委員会



広報委員会

ていきたい」との安田理事長の方針に基づき、新しい事業などについての熱のこもった論議が続いた。終わって三時半から小野寺久幸氏の講演（別掲参照）があり、七十名を超える人たちが耳を傾けた。講演会后、懇親会となり、情報交換に時間を忘れた。



講演する小野寺久幸氏

講演会で（財）美術院常務理事の小野寺久幸氏は、平成になって行われた東大寺南大門の仁王像の修復について、数十枚のスライドを使いながら、仁王像建立にかけた昔の人々の苦勞や、修復作業の難しさなどを詳細に語った。

東大寺南大門の仁王像は八メートルをこえる。小野寺氏は「材木を運搬するのも昔の人たちは大変な苦勞をしたと思う。仁王像は何百、何千というパーツからできている。解体修理をどこから手をつけたらよいかわからず、内視鏡を使うなどしました」

「大きな像であれ、小さな像であれ、修復への熱意に変わりはありません。大小にかかわらず、修復の心は常にいっしょです。修復とは自分がやりたいからやれるものではなく、巡りめぐって自分のもとにやってくるものです。自分がやることになったら一所懸命にやることです」

「まさに、鶏鳴、暁を告げる」の時」



役員会の冒頭、挨拶する
安田理事長

—安田理事長の役員会での挨拶から—

「事業を持ち、メリットのある全宗協に」

二月二十一日の役員会で、冒頭、挨拶に立った安田理事長は、今年の全宗協について「改革の第一歩の年と位置づけたい」との方針を示し、各組合員のさらなる支援と協力を強く訴えた。

私は今年の全宗協について、改革の第一歩の年である、と位置づけていきたいと考えています。これからの全宗協は、事業を持つことで、皆さんにとって非常に魅力のある組織、メリットのある組織にしていかなければならないと思っています。

昨年の仏事コーディネーター試験では、試験に先立って講習が行われました。私は講師として仏事コーディネーターの意義についてお話をさせていただいたわけですが、私の話に耳を傾ける受験者の皆さんの、真剣かつ真摯な姿を目にしまして、全宗協に対する期待の大きさを肌

で実感しました。皆さんの期待にそうよう、何としてもこれまでに以上にパワーのある全宗協にしなければならぬと思ひました。

そのためには、事業を行い、皆さんのお役に立つ全宗協というものを、はつきりと打ち出していこうというのが、私の抱負であり方針です。

そうした全宗協とする上で、数（会員数）の問題は根本にかかわってくる事柄です。事業をするにしても、啓蒙活動をするにしても、あるいはインド洋の天津波や中越地震といった災害に、全宗協として何らかのアクションを起こすにしても、会員数の多さは大きな力となります。大いなる数の力を結集して、宗教はなれ、ひいては仏壇はなれといわれる時代に立ち向かっていかなければなりません。

今、地球にやさしいといいますが、環境を考えようということが重要なテーマとして

今年の「仏事コーディネーター」試験の方向 十一月十五日に東京・大阪の二会場の予定

昨年と同じく全宗協組合員のみを対象に
全宗協への入会資格を「緩和」の方向へ

二回目となる今年の「仏事コーディネーター」試験の基本的な方向が、目に見える形となってきた。

二月四日の京都での全宗協の三役拡大会議、それに続き二月二十二日に東京で開かれた「仏

事コーディネーター資格審査協会（会長＝全宗協の安田理事長）の理事会での話し合いを通して目に見える形となってきたもので、今後、これらの話し合いをベースに、役員会で最終的な方向が打ち出される。

二月四日と同日の二回の話し合いを通して固まった大筋は、以下の通りだ。

今年の資格検定試験は十一月十五日（火）に実施する。試験会場は昨年と同じく、東京と大阪の二会場とする計画となっている。試験にあたっては、昨年と同様に講習も行うが、今回は外部講師は招かず、内部講師だけによる講義とする、となつて

昨年は全宗協組合員（及びその従業員）のみに受験資格が認められた中で試験講習も含む）が実施された。今年からは全宗協組合員以外にも受験資格を認めるかどうか一つの課題になっているわけだが、これまでの話し合いでは、今年も昨年同様とする方向が大勢となつてきている。

しかし、受験資格は全宗協組合員（及びその従業員）のみにとどめるものの、一方では、全宗協への入会資格を緩和することを検討し、早急に理事会の議題に上げ、承認・実施の方向へと動いている。

全宗協への入会資格を緩和すれば、資格取得を希望する人たちはそれだけ受験の機会が広がることになる。と同時に、全宗協の長年の課題である組合員増強への今後の展望にも大きく結びつくものと見られている。

電話で相談を寄せる人たちも

スタートした 仏事コーディネーター制度 消費者の間に「浸透」しはじめる

昨年十一月十六日に試験が行われスタートした「仏事コーディネーター資格制度」が、消費者の間に「浸透」しはじめた。

「仏壇が本当に国産かどうか見分けるには、どうすればいいのだろう」「法事にはどのぐらい寺に出せばいいのだろうか。仏事コーディネーターの方に聞ききたい」……。そうした相談や問い合わせを受ける仏壇仏具店も出てきている。

仏事コーディネーターについては、消費者にいかにも早く制度を知ってもらったが大きな課題と言われてきたが、その心配はなさそうな気配だ。

スタート間もない中で早くも出始めた反応に、「消費者の皆さんの期待に応えるためにも、私たちはいつその自

己啓発をしていかなければ」と、緊張を見せる店もある。

十名余の仏事コーディネーターがいる宇都宮市のある事業所の場合、この三月初めまでの二カ月で、二十人を超える人々から電話による相談や問い合わせを受けた。

この事業所では毎月一回、自社の仏事コーディネーターを紹介したパンフレットを県内に配布している。そうした事業所側の「努力」も功を奏しているようだが、とにかく消費者の反応は日増しに高くなっていく。三十〜四十キロメートルの遠方から電話をかけてくる人もいるとか。

お仏壇のこと、法事のこと、あるいはお布施についてと、その内容は多岐にわたる。特徴的なのは誰もが仏事コーディネーターの名前を指名して

五月十七・十八日に東京で第十八回通常総会

関東地区協議会の内田長祐会長に聞く 「改革への第一歩の場にできれば」



内田長祐・関東地区協会長

第十八回通常総会は、五月十七・十八日に東京の「ホテル日航東京」(港区台場)を会場に開かれる。

東京での通常総会は九年ぶりとなる。総会翌日の十八日にはオブシヨナルツアーと懇親ゴルフが開かれる。通常総会については前号の会報で既報しているが、開催準備にあたっては関東地区協議会の内田長祐会長(川口市の株式会社大黒堂代表取締役)に、今回の総会が「目指すもの」について聞いた。

東京での総会は全宗協が発足してから九年ぶり、三回目となりますが、私たち関東地区協議会では、可能な限り大勢の組合員の皆さんが参加いただけるような総会にしたいと考えており、「全員で参加する組合活動」をコンセプトにして開催準備を進めています。

そのために例えば参加費用については、総会・講演会・懇親会等を全部セットにした従来のやり方はせず、それぞれ分割した考え方をとろうと思っています。東京に出張のついでに会場に寄っていただき、総会にだけ出席してお帰りになっても、それはそれで結構だということ。とにかく

できるだけ大勢の皆さんに会場に足を向けていただけるような総会にしようというのが、私たち関東地区協議会の願いなのです。

宗教離れなど、仏壇仏具業界は大変な時代を迎えています。業界の「あす」をどうしたらいいか。全宗協という組合にとつての最大のテーマは、その一点にあると言ってよいと思います。それには可能な限り大勢の皆さんに組合活動に参加していただき、さまざまな議論を重ね、そして力を結集していかなければなりません。

仏壇仏具業界の次代を担う若い人たちに希望をもっています。

お仏壇のこと、法事のこと、あるいはお布施についてと、その内容は多岐にわたる。特徴的なのは誰もが仏事コーディネーターの名前を指名して

仏壇仏具業界の次代を担う若い人たちに希望をもっています。



第18回通常総会の開かれる
「ホテル日航東京」

おわびと訂正

前号の会報に掲載した「仏事コーディネーター合格者」のお名前に誤りがありました。深くお詫びをするとともに訂正させていただきます。

誤りがあったのは、大阪会場で受験し合格した澤忠知さんです。会報では「澤崎忠知」と「崎」を苗字に入れてしまいました。

決して起こしてはならないミスでした。お立場をいちじるしく傷つけたことを深くお詫びいたします。今後、こうした失態がないよう、万全の注意をする所存です。

くることだ。「寺に出すお布施はどのぐらいがいいのか、コーディネーターの誰々さんに聞きたいのだが」と名指しで相談してくるそうだ。

こうした反応に同事業所の経営者は、次のように話している。

「「こつこつ」ってのは消費者の皆さんにお叱りを受けるかもしれないませんが、消費者の方々は仏壇やお布施などについて知らない方が大半です。それだけに懇切に説明してさしあげますと、大変に喜ばれます。そうした風景を見ていて、本当にいい制度ができたなとつくづく思います。誰にでも資格を与えてはどうかという声もあると聞いていますが、それでは「悪用」される心配があり、結局は自分たちの首を絞

めることになります。消費者の皆さんの期待に応えるために、これからも私たちは自己啓発を忘れず、もつともつとプロとしての修養を積み重ねてはと思っています」

京都市のある仏壇仏具店でも、消費者からの相談や問い合わせが目に見えて増えている。「お店に行った時、大変に親切な応対を受け、お仏壇についての説明も分かりやすく、懇切にしてくれました。あのコーディネーターの方はお店のおいでになりますか」。そんな電話をかけてくる人もいます。

この仏壇仏具店の経営者は「制度は浸透しはじめた感じがします。消費者の方たちにとっては大助かりなんだろうと思います」と話している。

愛知万博開催の中で全仏展 名古屋で五月二十一日～二十三日の三日間

全宗協もブースを初設置、「いま」をPRへ

二年ごとに開かれている全仏展（全国伝統的工芸品仏壇仏具展）が、愛知万博開催の中で五月二十一日から二十三日までの三日間、名古屋市熱田区の「名古屋国際会議場」で開かれる。

名古屋での全仏展は第十八回の全仏展となる。現在、全仏連（全国伝統的工芸品仏壇仏具組合連合会、若林靖博会長）と地元の名古屋仏壇、それに三河仏壇の組合が中心となつて準備を進めている。

愛知万博開催中の真つただ中で開かれる今回の全仏展には、全宗協も会場にブースを初設置し、仏事コーディネーターについての啓蒙をはじめ、全宗協の「いま」を来場者に強くアピールすることになっている。

愛知万博（愛称「愛・地球博」）は、瀬戸市や豊田市、それに名古屋市と接する愛知郡長久手町を会場に、三月二十五日から九月二十五日まで開かれる。

愛知万博（愛称「愛・地球博」）は、瀬戸市や豊田市、それに名古屋市と接する愛知郡長久手町を会場に、三月二十五日から九月二十五日まで開かれる。

会期中の入場者は千五百万人が予想されている。全仏展は其中で開かれる。全国から愛知県に集まる人たちを全仏展に引き寄せることも期待できそうで、国から



全仏連の若林靖博会長

「伝産地区」に指定されている全国の十五産地（京都では京仏壇と京仏具の二つが指定されているため、指定品目は十六となる）の伝統の技を広くPRする場となる。

全仏展には十五産地から出展される予定だ。関連として青年部サミットなども計画されている。

全宗協では一昨年十月、滋賀県で開かれた第十七回全仏展に合わせ、全国研修会を開き、全仏連と「初交流」を持ったが、今回も会場に全宗協としてのブースを初めて設置することになった。

ブースをどう活用していくかについては、全宗協広報委員会（高山正委員長）のもとで具体化が練られているが、仏事コーディネーターについての啓蒙や、ポスターを利用した全宗協活動の「いま」などをパネルを使って広くPRする場にした計画だ。



にぎわった滋賀県での第十七回全仏展



第十七回全仏展の会場には見学に訪れた外国人の姿もあった

「よみがえれ仏教」をコンセプトに

広報委員会の高山正委員長に聞く



高山正・広報委員会委員長

五月に名古屋市中開かれる第十八回全仏展で、全宗協はブースを初めて設け、活動の「いま」をアピールすることになった。全宗協にとって広報活動は年々重要さを増している。昨年発足した仏事コーディネーター資格制度を、消費者により広く知ってもらう上でも、広報活動は大きな「カギ」を握っていると言っている。

昨年五月に広報委員会委員長に就任した高山正氏（広島市の株式会社高山清代表取締役社長）に、広報委員会の「これから」について聞いた。

私たち広報委員会は「よみがえれ仏教」を大きなテーマとして掲げています。

今、業界の「あす」にとつての大きな課題は、宗教離れ、仏壇離れです。この問題をど

う、阻止していくか。それにはまず私たちが行動を起こすことです。

例えばポスターです。全宗協制作のものとしてはこれまで「仏壇の日」のポスターだけだ

ったわけですが、感謝して合掌することを啓蒙促進するためのポスターをつくることを考えて

いいと思っています。また「仏旗」については、全日本仏教会が国民の皆さんにもっと知って

もらおうという運動をしています。その運動に全宗協も参画して、啓蒙的なポスターをつくるなどできないかと考えています。さらには「よみがえれ仏教」をテーマに据えていますので、「お寺に行こう」「お寺にお参りしよう」といったポスターをお寺などに貼りだしてもらおう、全宗協として検討してもいいと思っています。

そうしたポスターばかりでは

なく、消費者の皆さんに、全宗協が今なにを考え、どのような活動を展開しているのかをお知らせし、共感を得る活動をしていくこともきわめて大事です。それには全宗協の姿を目に見える形にしていかなければな

りません。その意味でも広報は重要な時にきていると考えています。

名古屋で開かれる第十八回の全仏展では、全宗協のブースを活用して仏事コーディネーター資格制度のPR、さらには先ほどお話をしました「仏旗」についての啓蒙などを計画していますが、日本という国の全宗協、ひいては日本の中の仏壇仏具業界というものに視点を据え、その「いま」と「あす」の姿を、パネルを使って強くアピールできればと考えています。

これからは、広報というものの切り口を少しでも広げ、実効ある形をつくっていかねばならないと考えています。

コンテスト 2005

東京都港区の浄土宗大本山増上寺で二月九・十日の二日間、仏壇文化研究所（BBF）主催の全国「こんな仏壇あったらいいな」コンテスト2005が開かれ、会場は全国からの販売店関係者らでにぎわった。全宗協もコンテストを後援し、全宗協理事長賞や全宗協創作賞などを贈った。

コンテストは、仏壇業界の創意工夫の向上と、消費者に対して「新しい時代に応じた商品が提案できる業界」を強くアピールしようと、「BBF」として初めての開催とな

った。会場にはBBFのメンバーである全国の大手仏壇メーカー・卸メーカー十一社から「金仏壇」「唐木仏壇」「家具調仏壇」「上置型仏壇」「創作

仏壇」の五部門に五十一点の新作仏壇が展覧された。コンテストは投票で行われ、グランプリなどの各賞が決まった。全宗協もコンテストを後援

し、安田理事長も出席して、全宗協理事長賞、全宗協創作賞、全宗協技能賞、全宗協デザイン賞を贈った。

全国「こんな仏壇あったらいいな」

仏壇文化研究所(BBI)が増上寺で開催 全宗協も後援、理事長賞などを贈る



全宗協理事長賞の「22号家具調『琳』」(フジモト)



全宗協デザイン賞の「priere (プリエール)」(小野屋漆器店)



全宗協技能賞の「庵(いほり)」(森正)



全宗協創作賞の「カラー」(ずゞや)



全宗協理事長賞となった「楓」(三村松)



全宗協技能賞を受賞した高級モダン「さきがけ・洋」(保志卸センター)

地区協議会の開催状況

九州地区協議会

(1月19日、セントラルホテル福岡)

①会員の増強 ②情報交換 ③その他

北海道東北地区協議会

(2月17日、仙台メトロポリタンホテル)

①講演会 (仏壇店が支える日本の仏教文化)
②地区協議会の活性化 ③情報交換

関東地区協議会

(3月4日、浅草のビスタホテル)

①全宗協17年度総会について ②その他

東海地区協議会

(2月16日、名古屋の舞鶴館) ①講演会 (美しくしなやかに そして したたかに～女性経営術のシナリオ) ②東海地区協議会総会

訃報

地区名	組合員	ご逝去	逝去日
北海道東北地区	(株)さいとう 齋藤裕之	ご母堂秀子様 98歳	平成16年 12月5日
北信越地区	(株)柳瀬商店 柳瀬 清	ご尊父喜三様 90歳	平成16年 12月25日
北信越地区	(有)五十嵐仏壇店 五十嵐寛	ご尊父嘉三松様 95歳	平成17年 1月14日
東海地区	(有)三枝堂本店 三枝紀元	ご母堂えみ子様 84歳	平成17年 1月29日

編集後記

▼二月十六日に行われた今年の「お墓ディレクター」の試験を目にする機会を得た。「お墓ディレクター資格制度」は、わが国石材業界の初めての統一団体として、平成十三年十一月に発足した日本石材産業協会(石産協)が、事業の大きな柱と位置づけてきたものだ。第一回のお墓ディレクター試験は、昨年は、誰にでも受験できます、という門戸開放の形で二月十八日に行われた。

▼昨年は札幌・仙台・東京・大阪・高松の全国五都市で実施されたが、今年は福岡市が新たに会場に加わり、全国六都市で行われた。福岡が会場として追加されたのは、九州地区の各石材店からの強い要望があったためと聞く。即座にその声に応えたわけだ。試験は昨年は二級資格のみだったが、今年は二級のほかに一級試験も行われた。今年の二級・二級の合格者は四月までには発表されるが、これによって石材業界には一級と二級の資格者が出揃ったことになったわけだ。

▼昨年同様に門戸開放で行われた今年の受験者は、全国六都市で合わせて二千七百七十名にのぼった。昨年は二千五百三十六人(うち合格者は二千四百九十六人)だったから、ほぼそれに近い受験者が今年も資格取得を目指したことになる。お墓ディレクター資格にかける熱気は、今回も文字通り熱かったといえる。試験は一級は論文を含めて百二十分、二級は九十分にとった。昨年、二級を手にした石産協の会長や副会長らトップも一級に、挑戦したが、論文は誰にも難しくかったようだ。

▼東京は西五反田のTOCビルが試験会場となったが、会場にはNHKの人気番組「ご近所の底力」の収録スタッフの姿もあった。昨年十一月十六日に行われた仏事コーディネーター試験では、残念ながらテレビ局の取材はなかった。「仏壇の話は視聴者にインパクトを与えにくい」とテレビ局は話しているそうだが、消費者に資格制度を知ってもらう上でテレビの情報伝達力は、絶大だけに、残念の思いを禁じ得なかった。

▼二月二十一日の春の全国研修会に先立ち開かれた役員会で、安田理事長は「今年を改革の第一歩と位置づけたい」との方針を示し、事業を持った全宗協、メリットのある全宗協構築を宣言した。「仏事コーディネーター資格制度は軌道に乗った。これからは新たな事業に踏み切り、いつそのパワーを持った組織に」という強い思いが安田理事長の胸にはあるのだろう。

▼安田理事長の方針の方向に期待したい。テレビ局が取材に来たかどうかをことさら問題にするつもりはないが、「改革の年」を組合員全員が真摯に受け止め、自店のみを考えるのではなく、「業界の「あす」をも念頭に置きつつ」の姿勢を持ち続けられ、インパクトのある業界に必ず生まれ変わるはずだ。お墓ディレクターの試験会場の熱気の真つただ中に身を置きながら、そんな思いが幾度となく頭をよぎったことを記しておきたい。